

## 大学コンソーシアム岡山における遠隔教育Ⅲ

竹内 渉

岡山理科大学 情報処理センター

**Key Words** : 遠隔教育、e-Learning、テレビ会議システム、VOD 方式、大学連携

### 1. はじめに

大学コンソーシアム岡山は、平成 21 年度から平成 23 年度の期間で文部科学省「大学教育充実のための戦略的  
大学連携支援プログラム」に選定された「岡山オルガノンの構築—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指  
した教育—」事業 [1] の内の 1 つであった遠隔教育を継承しており、岡山県内 15 大学が連携して遠隔教育を行っ  
ている[2-5]。

大学コンソーシアム岡山における遠隔教育は、テレビ会議システムを用いた双方向ライブ型教育とインターネッ  
トを活用した VOD 型教育の 2 方式で実施されており、平成 26 年度の遠隔教育の成果や課題点を記述する。

### 2. 平成 26 年度の遠隔教育

#### (1) ライブ型遠隔教育

平成 25 年度の大学コンソーシアム岡山では、前期に 5 科目、後期に 5 科目の合計 10 科目のライブ型講義が開講  
され、配信大学数は 7 大学であった[5]。平成 26 年度の大学コンソーシアム岡山において、前年度より 2 科目増加  
して前期に 3 大学から 5 科目、後期に 7 大学から 7 科目の合計 12 科目のライブ型講義が表 1 の通り開講された。

表 1 平成 26 年度双方向ライブ型遠隔講義科目

配 信 大 学 名	開講期間	科 目 名
岡山大学	前期	大学と社会
	前期	テレビゲームからみる情報科学概論
	前期・後期	雪から読み解く地球環境
岡山県立大学	後期	音楽の鑑賞
岡山商科大学	前期	経営学特殊講義Ⅰ
	後期	経営学特殊講義Ⅱ
岡山理科大学	後期	ボランティア論*
環太平洋大学	後期	スポーツ栄養学
倉敷芸術科学大学	前期	倉敷まちづくり基礎論
くらしき作陽大学	後期	博物館情報・メディア論
山陽学園大学	後期	地域貢献*

\*オムニバス形式で同時開講

#### (2) VOD型遠隔教育

平成 25 年度の大学コンソーシアム岡山では、14 大学から前期に 6 科目、後期に 15 科目の合計 21 科目の VOD

型講義が配信された[5]。平成26年度の大学コンソーシアム岡山において、科目数は前年度より1科目減少して、前期に6大学から7科目、後期に10大学から13科目の合計20科目のVOD型講義が表2の通り開講された。

表2 平成26年度VOD型遠隔講義科目

大学名	開講期間	科目名
岡山大学	後期	学習支援システムが概論
岡山県立大学	前期	解析学Ⅰ
岡山学院大学	後期	食に関する健康学
岡山理科大学	前期	インターネット入門
	後期	インターネット入門
	前期	アルゴリズム入門
	後期	アルゴリズム入門
	後期	環境考古学
	後期	岡山学
川崎医科大学	前期	健康と素因・環境そして生活
	後期	健康と、それを取り巻く環境
川崎医療福祉大学	前期	睡眠学
環太平洋大学	後期	レクリエーション論
吉備国際大学	前期	水質環境論
	後期	身体運動学
くらしき作陽大学	前期	食心理学
山陽学園大学	後期	現代中国論
就実大学	後期	日本人の思想
中国学園大学	後期	運動生理学
ND 清心女子大学	後期	考古学Ⅱ

### 3. 平成26年度の遠隔教育の成果と課題

平成26年度の大学コンソーシアム岡山における遠隔教育の成果を記述する前に、平成25年度における大学コンソーシアム岡山の遠隔教育の受講状況について述べる[5]。表3で表示されているように、ライブ型講義の受講生数は、前期に18名、後期に15名の合計33名であった。ライブ型講義において僅かな受講生数であることが最も想定される理由は各大学間の授業時間割の違いによる。他方、VOD型講義の受講生数は前期に120名、後期に392名の合計512名であり、それ相応の成果があった。尚、ライブ型とVOD型講義の総受講生数545名中の388名、すなわち約7割が本学の学生であった。

平成26年度の大学コンソーシアム岡山における遠隔教育の受講生数が表4に示されている。ライブ型講義の受講生数は、前期に8名、後期に25名の合計33名であり、受講生数は少ない。このような状況において、岡山理科大学配信の「ボランティア論」と山陽学園大学配信の「地域貢献」は同時開講され、それを受信した岡山商科大学と中国学園大学との4大学間でオムニバス形式の遠隔授業が実施された。因に岡山理科大学では自学の「ボランティア論」の受講生数は20名、山陽学園大学では自学の「地域貢献」のそれは2名であり、これら22名を含めた55名が平成26年度のライブ型講義を実質的に受講したことになる。4大学の各大学は50分間程度の共通時間枠のコ

アタイムにオムニバス形式で「岡山オルガノン」や大学コンソーシアム岡山において今までに実績を作り上げている「日ようび子ども大学」、「エコナイト」、「東日本大震災復興ボランティア」活動等の講義内容を担当して、それらを他大学へライブ授業として配信した。コアタイム以外の時間帯では、個々の大学において毎回の講義内容に関してディスカッションするという方法であった。平成26年度に初めて導入された同時開講で4大学間でのオムニバス形式の授業は、教育的な面では成果があったが、受講生数の面ではさらに増やす努力が今後も必要とされる。一方、VOD型講義科目では、受講生数は前期に153名、後期に279名の合計432名であった。平成25年度よりも配信科目が1科目減少し、前年度よりも受講生数は80名減少した。VOD型講義では遠隔教育の成果が一応現れているが、受講生数が減少していることは今後気掛かりである。尚、ライブ型とVOD型講義の総受講生465名の中で、本学学生が328名であり、全体の約7割を占めている。

表3 平成25年度「大学コンソーシアム岡山」遠隔教育の受講生数

期	区分	配信大学	科目名	岡大	県大	学院	商大	理大	医大	医福	環大	吉備	倉芸	作陽	山陽	就実	中国	清心	計	
前期	ライブ	岡山大	大学と社会	△	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
			テレビゲームからみる情報科学概論	△	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	1	7
		岡山商科大	経営学特殊講義Ⅰ	3	0	0	△	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	8
		川崎医科大	健康と、それを取り巻く環境	0	0	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		倉敷芸科大	倉敷まちづくり基礎論	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	0
		ライブ合計	3	0	0	3	2	0	0	1	0	4	0	0	3	0	2	18		
	VOD	岡山県立大	解析学Ⅰ	1	△	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	4	
		岡山理科大	インターネット入門	2	0	0	1	△	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	7	
			アルゴリズム入門	1	0	0	0	△	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	4	
		川崎医福大	睡眠学	8	0	0	1	25	0	△	2	0	3	0	1	6	0	6	52	
		吉備国際大	水質環境論	4	0	0	0	16	0	0	1	△	1	0	1	0	0	0	23	
		くらしき作陽大	食心理学	9	1	0	1	11	0	0	1	0	3	△	0	3	0	1	30	
			VOD合計	25	1	0	3	52	0	0	5	0	7	2	4	14	0	7	120	
平成25年前期合計				28	1	0	6	54	0	0	6	0	11	2	4	17	0	9	138	
後期	ライブ	岡山大	雪から読み解く地球環境	△	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
		岡山県立大	音楽の鑑賞	1	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	
		岡山商科大	経営学特殊講義Ⅱ	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		環太平洋大	スポーツ栄養学	3	0	0	0	2	0	0	△	0	0	0	0	0	0	0	5	
		山陽学園大	ボランティア論	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△	0	0	0	0	0	
			ライブ合計	4	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	15	
	VOD	岡山大	学習支援システム概論	0	0	0	0	37	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	40	
		岡山学院大	食に関する健康学	5	0	△	0	61	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	70	
		岡山商科大	パーソナルファイナンス	5	0	0	△	27	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	35	
		岡山理科大	アルゴリズム入門	0	0	0	0	△	0	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	
			インターネット入門	0	0	0	0	△	0	0	1	0	△	0	0	0	0	0	1	
			環境考古学	0	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		岡山学	岡山学	2	0	0	0	*67	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	
		川崎医科大	健康と、それを取り巻く環境	0	0	0	1	2	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
		環太平洋大	レクリエーション論	3	0	0	0	17	0	0	△	0	0	0	0	0	0	0	20	
		吉備国際大	身体運動学	4	0	0	1	56	0	0	2	△	0	0	1	0	0	0	64	
		山陽学園大	現代中国論	4	0	0	0	28	0	0	1	0	0	0	△	1	0	0	34	
就実大	日本人の思想	8	0	0	1	39	0	0	2	0	0	1	0	△	0	0	51			
	日本美術史b	4	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	1	△	0	0	26			
中国学園大	運動生理学	3	0	0	1	34	0	0	0	0	0	0	1	0	△	1	40			
ND清心女子大	考古学Ⅱ	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	△	5			
	VOD合計	40	0	0	4	324	0	0	7	0	2	1	9	3	0	2	392			
平成25年後期合計				44	0	0	4	334	0	0	7	0	2	1	10	3	0	2	407	
平成25年度合計				72	1	0	10	388	0	0	13	0	13	3	14	20	0	11	545	

\* 印 岡山理科大学では自学の学生が受講

平成26年度のライブ型講義では、オムニバス形式による配信大学の受講生を含めると、平成25年度よりも受講生数は増加しているが、顕著に必ずしも多いとは断言できない。学生にとって非常に興味ある魅力的な科目であれば各大学間の授業時間割の違いがあっても、受講生数をある程度見込めることは実証されている[5]。したがって、魅力ある講義をライブ型に取り入れることを常に念頭においておく必要がある。

表4 平成26年度「大学コンソーシアム岡山」遠隔教育の受講生数

期	区分	配信大学	科目名	岡大	県大	学院	商大	理大	医大	医福	環大	吉備	倉芸	作陽	山陽	就実	中国	清心	計	
前期	ライブ	岡山大	大学と社会	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			テレビゲームからみる情報科学概論	△	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
			雪から読み解く地球環境	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		岡山商科大	経営学特殊講義Ⅰ	0	0	0	△	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
		倉敷芸科大	倉敷まちづくり基礎論	0	0	0	0	0	0	1	0	0	△	0	0	0	0	0	0	1
			ライブ合計	0	1	0	0	5	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	8
	VOD	岡山県立大	解析学Ⅰ	0	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		岡山理科大	インターネット入門	3	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5
			アルゴリズム入門	2	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		川崎医科大	健康と素因・環境そして生活	0	0	0	0	1	△	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		川崎医福大	睡眠学	6	1	0	0	4	0	△	0	0	2	0	8	10	0	6	37	
		吉備国際大	水質環境論	1	0	0	0	37	0	0	0	△	0	0	0	1	0	2	41	
		くらしき作陽大	食心理学	6	0	0	0	43	0	0	0	0	2	△	4	6	0	5	66	
			VOD合計	18	1	0	0	85	0	1	0	0	4	0	12	17	0	15	153	
平成26年前期合計				18	2	0	0	90	0	2	0	0	5	0	12	17	0	15	161	
後期	ライブ	岡山大	雪から読み解く地球環境	△	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		岡山県立大	音楽の鑑賞	3	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	
		岡山商科大	経営学特殊講義Ⅱ	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		岡山理科大	ポランティア論	0	0	0	5	*20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
		環太平洋大	スポーツ栄養学	3	0	0	0	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	0	5	
		くらしき作陽大	博物館情報・メディア論	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△	0	0	0	0	0	
		山陽学園大	地域貢献	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	*2	0	16	0	16	
			ライブ合計	3	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	1	0	16	0	25	
	VOD	岡山大	学習支援システム概論	△	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
		岡山学院大	食に関する健康学	3	0	△	0	45	0	0	0	0	5	0	0	2	0	0	55	
岡山理科大		アルゴリズム入門	0	0	0	0	△	0	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0		
	インターネット入門	0	0	0	0	△	0	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0			
		環境考古学	1	0	0	0	△	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
		岡山学	4	0	0	0	*89	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5		
川崎医科大	健康と、それを取り巻く環境	2	0	0	0	15	△	1	0	0	0	0	2	1	0	0	21			
環太平洋大	レクリエーション論	0	0	0	0	20	0	0	△	0	0	0	1	0	0	0	21			
吉備国際大	身体運動学	2	0	0	0	34	0	0	0	△	0	0	4	0	0	0	40			
山陽学園大	現代中国論	1	0	0	0	25	0	1	0	0	0	0	△	2	0	0	29			
就実大	日本人の思想	3	0	0	0	42	0	0	1	0	0	0	0	△	0	0	46			
中国学園大	運動生理学	1	0	0	0	39	0	0	0	0	0	0	3	0	△	0	43			
ND清心女子大	考古学Ⅱ	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	△	5			
		VOD合計	17	0	0	0	237	0	3	1	0	5	0	11	5	0	0	279		
平成26年後期合計				20	0	0	5	238	0	3	1	0	5	0	11	5	16	0	304	
平成26年度合計				38	2	0	5	328	0	5	1	0	10	0	23	22	16	15	465	

\* 印 岡山理科大学と山陽学園大学では自学の学生が受講

VOD型講義では受講の時間や場所が制約されないために、前年度と同様に平成26年度においても一応の成果が得られているが、本学以外の大学ではまだまだ受講生数を増やすことが望まれる。そのためには、本学以外の大学では本学のように単位互換科目の認定単位数の上限を多くし、他大学の魅力的な且つ特徴的な主に教養系科目等の単位互換をアクティブに行うことが必要である。これらのことにより、進学希望大学が地元志向傾向である昨今では岡山県内は当然のこと、県外からも各大学において固定的に入学者を呼び込める可能性がある。そのためにも、また遠隔教育制度の普及や広報活動を地道に引き続き行うことが要求される[4, 5]。いずれ遠隔教育が学生に周知徹底されれば、受講生数は現状よりも増加すると想定され、大学コンソーシアム岡山の遠隔教育が岡山県内の大学連携発展に大いに貢献すると考えられる。

#### 4. おわりに

平成26年度の大学コンソーシアム岡山における遠隔教育として、VOD型講義での受講生数は一応の好成果を得ているが、ライブ型講義での受講生数は少ない。ライブ型講義の受講生数を増やすために、一部のライブ型同時開講ではオムニバス形式を取り入れた結果、受講生数は僅かに増加したが、その効果は顕著に現れていない。ライブ

型とVOD型講義の遠隔教育をさらに実りある成果にするためには、各大学での単位互換科目の認定単位数上限を増やすための学則変更、また遠隔教育の普及や広報活動を引き続き遂行することは当然必要不可欠である。

## 謝辞

遠隔教育の受講生数データを集計し、提供戴いた大学コンソーシアム岡山事務局の岡戸真理子氏に深く感謝の意を表します。

## 参考文献

- [1] 岡山オルガノン公式ホームページ, <http://okayama-organon.jp/>.
- [2] まなびオルガノン, <https://manabi-organon.jp/>.
- [3] 大学コンソーシアム岡山, <http://www.consortium-okayama.jp/>.
- [4] 竹内 渉, 岡山理科大学情報処理センター研究報告, 第 34 号 (2013) 55.
- [5] 竹内 渉, 岡山理科大学情報処理センター研究報告, 第 35 号 (2014) 51.